
2 中華人民共和国成立 70 周年大会における 習近平国家主席の重要講話を深読みする ～世界の転換期の主役は中米貿易摩擦、一帯一路、 第4次産業革命～

江原 規由 Noriyoshi Ehara

(一財)国際貿易投資研究所 研究主幹

要約

今年10月1日、中華人民共和国成立70周年を迎えた^{注1}。1949年のその日、毛沢東主席が中華人民共和国の成立を宣言した天安門城楼に、習近平国家主席^{注2}を先頭に江沢民、胡錦濤両元国家主席が登壇。10時式典開始。70の礼砲、国旗掲揚のあと、習近平国家主席が888字からなる重要講話（下記1.、以下、『習講話』）を行い、その後、習主席による閱兵、軍事パレード・祝賀パレードが2時間半余り続いた。建国から70周年、中国が構築してきた「中国力量」（チャイナ・パワー）を中国人民と世界に示した『習講話』であり、閱兵であり、パレードであったといえる。これをどう見るのか。中国のハードパワーの顕示とみるのか、ソフトパワーの発揮とみるのか。習主席は、講話の冒頭で、“70年前の今日、毛沢東同志ここで世界に向かって中華人民共和国の成立を厳然と宣言した。中国人民はその時立ち上がった。この偉大な事件は、近代以降100余年の中国の積貧積弱な状況、屈辱的・悲惨な運命を徹底的に改変し、中華民族は偉大なる復興の壮大な道を歩むこととなった。”と宣言。『習講話』の末尾で、

“中国の昨日はすでに人類の歴史に刻まれ、中国の今日は億万人の人民が創造しており、中国の明日はさらに素晴らしいものになるであろう。～中略～ 中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するため努力し戦い抜こう”と強調している。

『習講話』が発表される直前、中華人民共和国国務院新聞弁公室が「新

時代の中国と世界」白書（以下、『白書』）を公布した。『習講話』は全文888字であるが、『白書』のほうは、4章建て（下記）25,516字と長い。両者を読み比べると、『白書』は『習講話』の解説書的内容となっていることがわかる。

1章：国情に合った発展の道のり

2章：中国の発展は世界のチャンス

3章：繁栄と素晴らしい世界の建設は各国人民の共同の夢

4章：中国は素晴らしい世界を建設するために貢献を惜しまない。

本稿では、『習講話』に焦点を当て、『白書』や、中華人民共和國成立70周年祝賀レセプションでの習主席の講話を引用しつつ、中国の過去、現在、今後につき論じている。

世界が大きな転換期を迎えつつあるとされる現在、中国は公正で客観的なグローバルガバナンス改革、新型国際関係の構築、人類運命共同体の共同建設などを提起するなど、その転換期に大きく関わりつつある。

転換期の世界における中国の対応

- グローバルガバナンス改革：主に、中米貿易摩擦^{注3}、第4次産業革命の行方と関係。
- 新型国際関係の構築：主に、伙伴关系（パートナーシップ）^{注4}の行方と関係。
- 人類運命共同体^{注5}の共同建設：主に、一帯一路の行方に関係。

1. 習近平総書記の中華人民共和國成立70周年大会祝賀講話

『習講話』では、中国の数千年の歴史を背景に近代100余年の艱難辛苦の時代を経て中華人民共和國成立後の70周年における中国共産党が成し得た成果が語られている。『習講話』では、正にその時、世界が注目していた香港デモや中米貿易摩擦のといった転換期にある世界を彷彿とさせる事件について言及されていないが、間接的表現でそうした事態に対する中国の姿勢が表明されていたといえよう。その部分を読み上げる時、習主席の脳裏には

どんな風景が想像されていたのであろうか。

全国の同胞の皆さん

同志の皆さん、友人の皆さん

本日、我々は中華人民共和国成立70周年祝賀のため厳かに参集しています。この時この瞬間、全国各民族、国内外の中華の子（原文：儿〈兒〉女）は、無類の喜びの気持ちを抱き、我々の偉大なる祖国の誇りを感じ、我々の偉大なる祖国に心からの祝賀をしていることでしょう。

ここで、私は党中央、全国人代、国務院、全国政協および中央軍委を代表し、民族独立と人民解放、国家富強と人民の幸福のため不朽の勲功を立てた革命の先輩と烈士に対し懐かしさと感謝の気持ちを禁じえません！全国各民族人民と国内外の愛国同胞に対し、熱烈なる祝賀を表明いたします。中国の発展に関心と支持をいただいた各国の友人の皆さんに心からの祝賀を表明いたします！

70年前の今日、毛沢東同志ここで世界に向かって中華人民共和国の成立を厳然と宣言しました。中国人民はその時立ち上がったのです。この偉大な事件は、近代以降100余年の中国の積貧積弱な状況、屈辱的・悲惨な運命を徹底的に改変し、中華民族は偉大なる復興の壮大な道を歩むこととなりました。

70年来、全国各民族人民は一心同体となって不断の努力を通して世界が刮目する偉大なる成果を勝ち取りました。今日、社会主義中国が世界東方に巍然と屹立しました。如何なる力も我々偉大なる祖国の地位を揺り動かすことはできません。如何なる力も中国人民と中華民族の前進する足並みを阻むことはできません。

同志の皆さん、友人の皆さん！

前進のこの先、我々は中国共産党の指導を堅持し、人民主体の地位を堅持し、中国の特色ある社会主義の道を堅持し、党の基本理論、基本路線、基本方針を全面徹底して執行し、人民の素晴らしい生活への思いを実現し、新た

な歴史の偉業を創造できるよう努力し続けていきます。

前進のこの先、我々は、平和統一、一国両制の方針を堅持し、香港、マカオの長期繁栄・安定を保持し、海峡兩岸関係の平和発展を推進し、全ての中華の子が団結し、祖国の完全統一を実現するため、引き続き戦っていかなければなりません。

前進のこの先、我々は平和発展の道を堅持し、互惠ウインウインの開放戦略を推進し、引き続き世界各国人民と人類運命共同体の共同建設を推進してゆかねばなりません。

中国人民解放軍と人民武装警察部隊は人民軍隊の性質、特色を保ち、国家主権、安全、発展利益を堅持し、世界平和を断固として擁護しなければなりません。

同志の皆さん、友人の皆さん！

中国の昨日はすでに人類の歴史に刻まれ、中国の今日は億万の人民に創造されつつあり、中国の明日はさらに美しくなります。全党全軍全国各民族人民はさらに緊密に団結し、初心と使命を忘れず、引き続き、我々の人民共和国をさらに強固に、さらに発展させ、引き続き“2つの100年”の闘争目標を実現し中華民族の偉大なる復興という中国の夢を実現するため、戦い抜こうではありませんか！

同志の皆さん、友人の皆さん

偉大なる中華人民共和国万歳！

偉大なる中国共産党万歳！

偉大なる中国人民万歳！

(筆者訳)

2. 習講話とチャイナ・パワー

『習講話』は中国人民向け祝辞が中心であることは言うまでもないが、同時に、“転換期にある”とされる世界に対する中国のメッセージを多々読み取ることができる^{注6}。

ここでは、まず、近世と現代における中国と世界の関係について論じておく。

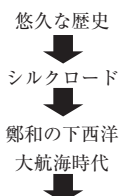
習主席は70周年祝賀大会の講話で、“70年前の今日、中国人民は立ち上がり（站起来了）、近代以後100余年来の貧困・脆弱状況を徹底的に改め偉大なる復興の壮大な道を歩み始めた”とし、さらに、“平和発展の道を堅持し、協力ウインウインの開放戦略を奉じ、世界の人民と人類運命共同体の共同建設を推進してゆく”と強調した。

“その建国70周年の中国をどうみるか”。いろいろな見方ができるが、『習講話』で強調されている、“世界が刮目する偉大な成果を収め、社会主義中国が世界東方に巍然と屹立した”点には異論はないであろう。2時間半余りに及ぶ式典を見た人は、少なからず世界第2位の経済大国（2018年：GDPで1952年比175倍〈年率平均成長率8.1%、一人当たり平均9,732ドル〉）となり、各分野で多くの「世界一」、「世界二」を記録してきた「チャイナ・パワー」に魅せられたのではないだろうか。

3. 三度の国際化を経験した中国

筆者は、中国はこれまで3度の国際化を経験してきているとみている。3度の国際化とは、①1840年のアヘン戦争で当時の列強から迫られた中国にとって受動的な第1次国際化（香港割譲など）、②建国（1949年）からほぼ30年後の改革開放政策（1978年）がもたらした第2次国際化、さらに、③その30余年後（2013年）に提起された一帯一路がもたらすと期待される第3次国際化である。中国は建国から70年間に2度の国際化に直面しているといえる。

表1 アヘン戦争から人類運命共同体へ～近世以後の中国と世界をみる視点～



- 第一次産業革命：18世紀後半から19世紀前半（英国：蒸気機関／機械化）
1840年：アヘン戦争（中国：第1次国際化）
- 第二次産業革命：19世紀後半（米国、ドイツ：電力／大量生産）
1911年：清朝終焉
1929年：世界恐慌
1949年：中華人民共和国建国
1978年：改革開放政策（中国：第2次国際化）
- 第三次産業革命：20世紀後半（米国：コンピューター／自動化）
2001年：WTO加盟
2010年：GDP世界第2位 上海万博
2013年：一帯一路構想（中国：第3次国際化）
- 第四次産業革命：21世紀前半
2017年：第一回一帯一路国際協力サミット・フォーラム
2018年：中米貿易摩擦 改革開放40周年
2019年：第二回一帯一路国際協力サミット・フォーラム／アジア文明対話大会
中華人民共和国建国70周年
2020年：小康社会の実現年
2021年：中国共産党結党100周年
2022年：中国共産党第20期全国代表大会
2023年：第13期全国人民代表大会
2025年：中国製造2025
2030年：SDGs 最終年 中国万博？（中国：第4次国際化）



グローバルガバナンス改革／人類運命共同体建設

筆者作成

3度の国際化の足跡を見ると、①アヘン戦争で割譲を余儀なくされた香港は建国以後一貫して中国の国際化の窓口として、そして、今は一国二制度下で中国経済の国際化に貢献している。「逃亡犯条例の改正案」に端を発した香港デモも、歴史的にはアヘン戦争による英国への香港割譲に発端があるといえる。②改革開放は、中国を世界第2位の経済大国に押し上げ、さらに、世界最大の貿易、生産、消費大国など多くの分野で「世界第1位」、「世界第2位」の座につかせている。③一帯一路は、提起以来わずか数年で世界100余か国から参加・支持（一帯一路参加国数については、公式には未発表）を得るなど、名実ともに人類運命共同体のプラットフォーム^{注7}になりつつある。

第1次国際化と第2次国際化までに100余年の時間が費やされている。その期間は習講話でも言及している“70年前的今天、毛泽东同志在这里向世界庄严宣告了中华人民共和国的成立、中国人民从此站起来了。这一伟大事件、彻底改变了近代以后100多年中国积贫积弱、受人欺凌的悲惨命运、中华民族走上了实现伟大复兴的壮阔道路”（『習講話』の“70年前の今日、～ 中華民族は偉大なる復興の壮大な道を歩むこととなりました”）に重なる。第2次国際化から第3次国際化まではわずか35年に過ぎない。この35年間に、中国は、それまで欧米が中心となって構築してきたグローバルガバナンス下で崛起（台頭）し、世界経済におけるプレゼンスを高め、第3次国際化以降、そのプレゼンスをさらに高めている。例えば、世界経済の成長率に対する中国の寄与率を見ると、第2次国際化期間（1979年～2013年）の年平均寄与率が15.9%、第3次国際化期間（2013年～2018年）では28.1%となり、目下中国は世界経済の成長に最も貢献（同30%強）しているとされる。なお、建国後から改革開放（1961年～1978年）までの同寄与率は1.1%であった。

3度の国際化の足跡・行方は、建国70周年講話で言及した“中国的昨天已经写在人类的史册上、中国的今天正在亿万人民手中创造、中国的明天必将更加美好”（中国の昨日はすでに人類の歴史に刻まれ、中国の今日は億万の人民に創造されつつあり、中国の明日はさらに美しくなる）の昨天、今天、明天に対応していると同時に、建国70周年記念日前日の国慶節（建国記念日）レセプションでの講話^{註8}で、同じく習国家主席が強調した“中華民族は、站起来、富起来、强起来（立ちあがった、豊かになった、強くなった）”の站・富・強の3点に対応しているとみられる。

表 2 建国以来の中国経済の変遷と日中関係

時代区分	1949 年～	1978 年～	2010 年 / 2013 年～
時代求是	政治重視：安定 建国 →站起来→ (立ち上がった)	経済優先：発展 改革開放 南巡講話 WTO 加盟 引進來→走出去 アジア通貨危機 リーマンショック 北京五輪 エコノミック・パワー →富起来→ (豊かになった)	民生向上：小康社会 一帯一路 人類運命共同体 グローバルガバナンス改革 第 3 国市場協力 中米貿易摩擦 上海万博 ソフトパワー →強 ^{注9} 起来→ (強くなった)
主役・求心力 発展舞台 発展分野 発展目的 発展成果 社会関心 対外関係	共産党(地位・権限) 農村 / 国内 第 1 次産業 / 農業 温飽 人民公社 平等 露・途上国	企業・外資 国内(沿海→内陸) / 国内外 第 2 (2.5)・3 次産業 先富 世界の工場・市場 格差・環境 日本・先進国	人民・人材 都市 / FTA 第 4 次産業革命 (5G/AI/IOT 等) 小康・共同富裕 対外展開拠点 (第 3 国市場協力) 反腐敗・社会保障 全方位 / 世界・宇宙
日中関係	○日中共同声明 国交 (1972 年) ○日中平和友好 条約 (1978 年)	○平和と発展のための友好協力パートナーシ ップの構築に関する共同宣言 (1998 年) → ○戦略的互恵関係 (2008 年) 熱烈歓迎・冷静実務・政冷経熱 垂直貿易→相互補完の水平貿易 対中投資	○伙伴关系 (2020 年) ? 双方向投資 → 第 3 国市場協力 中小企業 サービス貿易 人材

筆者作成

中国の国際化は、今後、世界の中国化をもたらし、かつ、両者の相互連携を強めてゆくのではないだろうか。その先には、中国が『白書』で、“面对国际局势的动荡不安、各国应遵守规则、增进信任、维护秩序、构建新型国际关系、走对话不对抗、结伴不结盟的国与国交往新路、使地球村成为共谋发展的大舞台、而不是相互角力的竞技场”（動揺と不安定な国際情勢下、各国は規則を遵守し、信頼を増進し、秩序を守り、新型国際関係を構築し、対抗でなく対話、パートナーシップであって同盟でない国家間の交流の新たな道を切り開き、地球村を共に発展する大舞台とし、相互に競う競技場とはしない）の世界の建設を目指しているということになる。

『白書』のこの部分で言及されている“面对国际局势的动荡不安”には勝利なき中米貿易摩擦（戦争）が、また、“走对话不对抗、结伴不结盟的国与国交往新路”では“对话不对抗、结伴不结盟”を原則として中国がすでにグローバルネットワークを構築している伙伴关系が、“使地球村成为共谋发展的大舞台、而不是相互角力的竞技场”には、一帯一路をそのプラットフォームと

する人類運命共同体の建設が意識されていると考えられる。

転換期の世界における中国の対応

- グローバルガバナンス改革：主に、中米貿易摩擦、第4次産業革命の行方と関係。
- 新型国際関係の構築：主に、伙伴关系（パートナーシップ）の行方と関係。
- 人類運命共同体の共同建設：主に、一帯一路の行方に関係。

4. 中国の国際化と世界の中国化

さて、中国の国際化と世界の中国化の連携事例は枚挙に暇なしである。例えば、①中国が2020年に実現する全面的小康社会（全面的にいくらかゆとりのある社会）^{注10}の経験を2030年が最終年となる国連のSDG s ^{注11}（極度の貧困・飢餓の撲滅などを目的）の実現に役立たせる、②中国対外貿易の拡大均衡、③第3国市場協力を含む中国の対外投資と対中投資の相互拡大、④第4次産業革命など。このうち、①については、中国は過去40年間に貧困人口を8.5億人余り減少させており世界の貧困減少に最も貢献していること（貢献率70%超）。SDG s との関連では、今年4月北京で開催された「第2回一帯一路国際協力サミットフォーラム」で挨拶したグテーレス国連事務総長は、“SDG s の実現は容易ではないが、中国はSDG s に多大な貢献をしている”と称えていることなどが指摘できよう。

対外貿易では、1950年に世界第28位（11億ドル〈世界全体の0.8%〉）であった中国が、2013年以降世界第1位（2018年：7.9兆ドル〈同11.8〉）、貿易パートナー数：1978年の40余から2018年の230余へ〈中国側報道：中国を第1貿易パートナーとする国は120か国余り〉）を維持していること。この点、今年11月上海で開催の中国国際輸入博覧会（第2回）が今後中国と世界貿易の拡大均衡にどう貢献してゆくかなどが注目される。

対外直接投資では、1982年にわずか0.4億ドルであった中国が、2018年に

は1298.3億ドル（年平均伸び率：25.2%、相手先：190か国・地域〈うち、アジア70.9%〉）で世界第2位、また、外資導入（非金融類）では、1979年から2018年までの40年間、年率平均44.4%の高い伸び率を記録し世界第2位（2018年：1,350億ドル）となっている。また、第4次産業革命との関連については、本稿4を参照いただきたい。

このほかにも、中国の国際化と世界の中国化の連携事例は多々ある。この点、中国経済における一帯一路経済のプレゼンスが高まっていることが注目されよう。一帯一路建設の進捗^{注12}は中国経済の国際化、世界経済の中国化をみますます必要な視点になりつつあるといえよう。

表3 主経済指標の変遷

類別／数値	1952 年	2018 年	倍率等
GDP	679 億元	900,309 億元 ^{注13}	174 倍（不変価格計算） ^{注14}
財政収入	1950 年：62 億元	183,352 億元	年平均 12.5 %
工業付加価値額	120 億元	305,160 億元	970 倍（不変価格計算）
一人当たり GDP	119 元	64,644 元	70 倍（不変価格計算）
最終消費率	78.9%	54.3%	
対中直接投資（非金融類）	1983 年：9.2 億ドル	1,350 億ドル ^{注15}	1983 年比 146 倍
対外直接投資		1,430.4 億ドル	2002 年比 53 倍 年率 28.2%増
対外貿易（貨物） サービス貿易	19.4 億ドル	46,224.4 億ドル ^{注16} 7,919 億ドル（世界 7%）	2,380 倍（世界第 1 位 世界第 2 位）
海外旅行者		延べ 1.5 億人	世界最多
対 GDP 研究開発支出		2.19%	
発明特許申請数	1990 年：1 万件	2017 年：138 万件	世界最多

国務院弁公室公布の「新時代の中国と世界」白書（新華社 09年9月27日）などから筆者作成

表4 建国 30 年来の生活水準の向上事例

指標／年度	建国初期	1980 年	2018 年
現行農村貧困標準下での農村貧困人口比率	赤貧状況	96.2%	1.7%
一人当たり平均可処分所得	98 元	171 元（1978 年）	28,228 元
平均余命	35 歳	65 歳	77 歳
高等教育入学率	0.22%	2.22%	48.1%
都市化 常住人口 戸籍人口			59.6% 43.4%
エンゲル係数：都市 農村		57.5%（1978 年） 67.7%（同 上）	27.7% 30.1%

同上

5. カギは、中米貿易摩擦、一帯一路、第4次産業革命の行方

習講話でも言及されている“世界を刮目させた偉大な成果”とは何か。GDP世界第2位の実績は言うに及ばずだが、『白書』で言及されているのは、

- ・ 2006年以降、世界経済の成長率における寄与率で中国が最大。
- ・ 世界唯一フルセットの産業構造（41工業大類、207工業中類、666工業小類）の保有国。
- ・ 2010年以来製造業付加価値額で米国を追い抜き世界第1位の製造業大国。
（2018年、中国の製造業付加価値額で世界全体の28%以上）
- ・ 世界500余種の主要工業製品中220余種工業製品で世界第1位。
- ・ 2018年末時点、高速鉄道（日本の新幹線に相当）の営業距離（3万km、世界の3分の2以上）および高速道路延長距離（14.3万km）で世界第1位。
- ・ 2019年フォーチュン誌の世界500傑企業番付のうち中国企業が最多の129社リスト・イン^{注17}。
- ・ 宅配業務量が世界一。
（1988年〈153万件〉から2018年〈507億件〉へ〈年率平均41.5%増〉、米、日、欧の総和を上回る。2019年は600億件超の見通し）
- ・ 情報通信ネットワークで世界最大規模。
- ・ 減貧（貧困減少）が世界最多 など。

因みに、多々ある「世界第2位」ではGDP（2010年以来）を筆頭に、商品消費量、外資流入、対外直接投資などが代表的事例といえよう。

このように中国の“世界を刮目させた偉大な成果”の事例は「枚挙に暇なし」であるが、第2次、第3次国際化をもたらした（もたらしつつある）改革開放、一帯一路がその生みの親、育ての親となっていることは否定できない。今後、中国が、“世界を刮目させる偉大な成果”を遂げる舞台は第4次産業革命にあるといえるのではないか。この点、『白書』によれば、

“中国の科学技術イノベーションは世界の科学技術の発展に新たなエネルギーを注入した。近年来、科学技術領域における中国のインプットは不断增加しており、重大な科学技術の新たな成果が不断に湧き出ている。2018年、中国の研究開発費はGDPの2.19%を占めている。世界知的財産権機関（WIPO）が発表したグローバルイノベーション指数によれば、中国の国家イノベーション能力は、2019年には、世界第14位（2018年：17位）で、中国は中等収入経済体で唯一20傑入りを果たしている。ハイテク分野では、中国は、量子通信、超高速計算機、宇宙開発、人工知能、5G、モバイル決済、新エネ車、高速鉄道、金融技術などで世界をリードしている。中国の科学技術イノベーション成果は広範囲に応用されており、他国の人民の生産・生活を便利にし、世界経済の発展に新たなエネルギーを注入している。

目下、第4次産業革命下にあり、新たな経済グローバル化と人類社会の発展に計り知れない深刻な影響を起こそうとしている。それは、未曾有の発展のチャンスでもあり、新たな厳しい挑戦でもある。各国は直ちに行動を起こし、全人類が共有する視野と先見で、新たなグローバルガバナンスの枠組みを共同建設しなければならない。これに関連した規則や標準のあり方を探ることは科学技術のイノベーションの発展と人類の安全のボトムラインを固守する上で有利である”と、中国の科学技術の発展に対する対応と貢献、第4次産業革命に対する姿勢に言及している。

注目すべきは、第4次産業革命が、“人類にとって未曾有の発展のチャンスであると同時に、新たな厳しい挑戦でもある”としているところである。この一行は、中国が強調する人類運命共同体建設の必要性を提起する一つの有力な根拠と深読みできるのではないだろうか。

中国は、昨年の改革開放40周年に続き、建国70周年、全面的小康社会の実現年、2021年結党100周年、以降、2022年中国共産党第20全国代表大会、2023年第14期全国人民代表大会・一帯一路10周年、中国製造2025年（世界の

製造強国入り)と節目の年が続く。今後、中国に世界の目がますます注がれることになる。

『習講話』は、“2つの100年”の闘争目標を実現し中華民族の偉大なる復興という中国の夢を実現するため、戦い抜こうではありませんか!と結ばれている。“2つの100年”の“1つの100年”とは、中国共産党結党100周年となる2021年に、もう“1つの100年”が中華人民共和国成立100周年となる2049年に訪れる。果たして中国は、その時まで、世界の転換期を「天の時」、貿易摩擦などを「奇貨」とし、どこまでグローバル・プレゼンスを高めることができるのか。今、そのカギは、中米貿易摩擦、一帯一路、第4次産業革命の行方にかかっているといっても過言ではない。

注

- 1 10月1日は国慶節（中華人民共和国の建国が毛沢東によって宣言されたことを記念する祝日）の第1日目。
- 2 状況、場面により、肩書は中共中央総書記、国家主席、中央軍事委主席、呼捨てなどに使い分けている。本文では、一部を除き国家主席に統一した。
- 3 『白書』では、中米貿易摩擦につき、“中国は最大の発展途上国であり、米国は最大の先進国である。協力こそ両国の正確の選択であり、ウインウインこそさらに素晴らしい未来を構築できる。中国は米国に挑戦する意思はなく、いわんや、米国にとって代わろうとは思っていない。米国は中国を左右することは出来ない”としている。
- 4 伙伴関係（パートナーシップ）については、季報4月号（117号）注3を参照。
- 5 中国はグローバルガバナンス改革を中国智慧、中国方案（構想）、中国力量で貢献するという。
- 6 『白書』の冒頭には、下記の記述がある。中国の世界に対するメッセージととれよう。

①“70年来、中国共産党の指導下、中国では天変地異の変化があり、人類史上未曾有の発展という奇跡を創造した。中国は、数十年で先進国が数百年かかった発展の道のりを走り終え、経済規模で世界第2位となった。14億人に近い人民が物資不足の状態から脱出し、総じて、小康水準（いくらかゆとりある水準）に達し、前人未到の尊厳と権利を享受するまでになった。このことは、中国の巨大な変化というだけでなく、人類社会の巨大な進歩でもあり、さらには、中国の世界平和と発展への巨大な貢献でもある”。

②“中国は確固として多国間主義を支持し、国際的事務事項については関係各国が話し合いで解決することを主張し、政治、経済、安全、人文等の多角的対話と協力のプラットフォームを積極的に構築する。“一帯一路”国際協力サミットフォーラム、中国国際輸入博覧会、紅橋国際経済フォーラム、中国-アフリカ協力フォーラム

ム、中国－アラブフォーラム、中国－ラテンアメリカフォーラム、ボアオアジアフォーラム、中国－アセアン博覧会、中国－アラブ国家博覧会、中国－アフリカ経済貿易博覧会、アジア文明対話大会、世界インターネット大会等グローバル・リージョナルの多角的なプラットフォームを創設し、多角的協力を日進月歩に推進してきている。さらに、CICA（Conference on Interaction and Confidence-Building Measures in Asia）上海フォーラム、APEC指導者北京非公式会議、G20指導者杭州サミット、BRICS指導者厦門（アモイ）会議、SCO（上海協力機構）青島サミット等で前進的、先見的、構造的成果を勝ち得ている。AIIB、新開発銀行などの国際金融協力機構の設立を發起し、グローバルでインクルーシブな発展に日々注力してきている。上海協力機構の設立を提起したことは、地域と世界平和の安定に重要な作用を発揮している”。

（訳：筆者）

- 7 中国は一帶一路を人類運命共同体のプラットフォーム（中文：平台）としている。
- 8 建国70周年記念日前日の国慶節（建国記念日）レセプションでの講話（1,319字）。

習近平：中華人民共和国成立70周年祝賀レセプションでの講話

（2019年9月30日）

習近平

紳士淑女の皆さん、

同志の皆さん、友人の皆さん：

このさわやかな美しい季節に、我々は中華人民共和国成立70周年を迎えました。

この時、この瞬間、全国各民族、国内外の中国の子は我々の偉大な人民共和國70周年を祝賀し、祖国のこれまでの進歩を誇りとしていますと思います。

70年来、中国共産党の確固たる指導の下、中国人民は、勇敢に探求し、不断に実践し、中国の特色ある社会主義の道を切り開き、中国の特色ある社会主義が新時代に入るよう推進してきました。中国は大きな足並みで時代に追いつき、中国人民は意欲に満ちあふれた気持ちを奮い立たせ、時代の前列の出ました！

70年来、中国人民は、勤勉に創業に励み、世界が目を見張る発展成果を創造しました。1100年来中華民族を蝕んできた絶対貧困問題に終止符が打たれたことは人類発展史上の偉大な伝説となりました！

70年来、中国人民は独立自主平和外交政策を遵守し、平和発展の道を堅持し、平和五原則の基礎の上で、各国との友好協力を堅持し、人類運命共同体の建設促進、人類と平和発展という崇高な事業を推進するため重大な貢献をしてきました。

70年は人類の長い歴史にあってほんの一瞬にすぎませんが、中国人民と中華民族にとって巨変であり、人間の70年を変えたといえるでしょう。中華民族は、“立ち上がった”、“豊かになった”から“強くなった”へと偉大な飛躍を遂げ、偉大な復興の明るい未来の実現に向かっています。これについて、中華の子は無類の誇りを感じていると思います！

ここで、私は党中央、國務院を代表し、全国各民族人民、共産党員全員に対し、中国人民解放軍指戦員および武警部隊官兵に対し、各民主党派および無党派人士に対し、崇

高な敬意を表します！香港特別行政政府の同胞、マカオ特別行政区の同胞、台湾同胞および広大な海外僑胞に対し、こころよりご挨拶いたします！新中国建設事業を支持し応援していただいた友好国家、国際友人に対し、心から感謝申し上げます。

同氏の皆さん、友人の皆さん！

団結は鉄、団結は鋼、団結は力です。団結は中国人民と中華民族が今後向き合うすべてのリスクと挑戦に打ち勝ち、不断に勝利から新たな勝利を勝ち取る重要な保証です。

新長征では、団結の旗印を高く掲げ、党中央を中心に緊密に団結し、全国各民族人民の大団結を強固にし、国内外の中国の子の団結を強化し、各党派、各団体、各民族、各階層、および、各方面の大団結を増強し、党と人民大衆の血肉関係を保持し、愛国主義精神を大いに高揚し、未曾有の力を凝結させ、中華民族の偉大な復興の船が風に乗り、波を打ち破って長い航海を走破できるようにしなければなりません。

我々は引き続き“一国両制”、“港人治港”の高度自治の方針を全面正確に貫徹し、厳格に憲法と基本法に基づいて事を行なわなければなりません。私は、祖国への全力支持、広大な愛国愛港愛澳同胞の共同努力があれば、香港、澳門（マカオ）は必ずや祖国内地と同じく発展し進歩し、すばらしい明日があると信じています！

私は、一つの原則と“九二コンセンサス”を堅持し、兩岸関係の平和発展を推進し、兩岸の経済・文化交流の協力を深化し、兩岸同胞の幸福をもたらさねばならないと思っています。祖国の完全統一の実現は大勢の赴くところ、大儀あるところ、民心の赴くところであり、いかなる勢力もこれを阻むことは出来ません！

我々は、平和、発展、協力、ウインウインの旗印を高く掲げ、断じて平和発展の道、対外開放を堅持し、世界各国人民と人類運命共同体の建設を推進し、平和と発展の陽光が全世界を照らすようにしなければなりません。

同志の皆さん、友人の皆さん！

中国人民は偉大な人民です。中華民族は偉大な民族です。中華文明は偉大な文明です。歴史は未来を照らしています。長征に終わりはありません。我々は5000余年の文明・歴史を有し、新中国70年の偉大な業績を創造した中国人民であり中国民族です。“2つの100年”の闘争目標において、中華民族の偉大な復興という中国の夢という新たな長征において、さらに新たな、さらに美しい時代の1章が刻まれると信じています。

ここに、我は乾杯を提起したいと思います：

中華人民共和国成立70周年のために、
中国の繁栄、富強および人民の幸福安泰のために、
中国人民と世界各国人民の友誼と協力のために、
在席の各位来宾、同志各位、友人各位の健康を祝し
乾杯！

出所：新華網2019年9月30日（筆者訳）

- 9 中国は各分野で大国から強国を目指している（例：経済大国→経済強国）。大国より強国のほうが格上である。両者の違いは「大」が量的拡大、「強」が質的向上を表しているといえる。
- 10 2010年比2020年GDPの倍増、絶対貧困の基本的撲滅などが柱。

- 11 SDGs：持続可能な開発計画（極度の貧困と飢餓の撲滅など17目標の2030年までの実現）。
- 12 『白書』に記載されている一帯一路の主要事業（5通事業）の成果は以下のとおり。
 - ①政策調整：
2019年8月末時点、中国は、136国・地区および30国際組織と一帯一路協力文獻に署名済。
 - ②インフラ連結：
2019年6月時点：中欧班列（中国－欧州間定期貨物列車）の累計走行回数：1万6,760列、16国・53都市を連結、運搬貨物量143.8万TEU（中国・ラオス鉄道、中・タイ鉄道、ハンガリー・セルビア鉄道、ジャカルタ・バンドン鉄道等）。
 - ③貿易円滑化：
中国はすでに18自由貿易試験区（FTZ）を設立済。一帯一路沿線国の100余項目の税関検閲・検疫協力文獻に署名済。2013年（一帯一路提起年）から2018年間の中国・沿線国間貿易累計額は6.5兆ドル。
 - ④資金融通：
2019年3月末時点、中国人民銀行は世界銀行、欧州復興開発銀行、アフリカ開発銀行等との連合融資は約200プロジェクト、70余か国・地区をカバー。2018年末時点、中国企业による一帯一路沿線国への直接投資は900億ドル余り、工事請負完成営業額は4,000億ドル超。
 - ⑤人材・文化等交流：
各種ビザ発行にかかわる相互協定の締結。ビザ発行条件の緩和・スピードアップ化。
2017年、一帯一路沿線国家の3万8,700人に中国政府奨学金を提供。2018年、同500名の国家青年科学者を招聘し科学研究交流を展開など。
- 13 13.6兆ドルで米国（20.5兆ドル）に次いで世界第二位（世界銀行発表）。
- 14 1979年－2018年のGDPの年平均成長率：9.4%。2018年：世界経済全体のほぼ16%。
- 15 1978年－2018年の累計：20,343億ドル（2018年時点：累計在中外資企業：ほぼ100万）。
- 16 2001年－2018年の輸入額（貨物）2,436億ドル－21,358億ドル（年率平均13.6%増）2018年の輸出額。
- 17 米フォーチュン誌2019年世界500傑企業番付による。